日本歯科大学校友会
KOYU Times
2018 Jun. | no.22

校舎の繁華　たらしめて　友と繋がる　校友会　歯車廻す　同志たち　学びを分かつ　歯学会

創立112周年記念式典・祝賀会
校友会創立記念式典特別参列制度（ジュビリー5025）開催さる

平成30年6月1日（金）生命歯学部富士見ホールにて創立112周年記念式典が厳かに執り行われました。本学教職員と退任された名誉教授、校友会会員の卒後50年（57回）26名、卒後25年（82回）26名、新潟生命歯学部学生の代表者、校友会会員等の400余名が参列しました。

校友会会員の卒後50年と25年には、創立記念式典特別参列制度（ジュビリー 5025）があり、大学と校友会よりお祝いされます。校友会から各々のゴールドバッヂ、シルバーバッヂと卒業時の日本歯科大学新聞が送られました。大学からは中原實作絵画の図書カードが贈られ、祝賀会が催されました。ホテルメトロポリタンエドモントでの大学主催祝賀会では、大学教職員や退任された名誉教授との懐かしくも楽しい時間を過ごすことができました。

卒業時には校友会に入会し、この記念すべき母校の創立記念式典に参列して恩師、先輩、同期生、後輩と一緒に過ごしましょう。

校友会主催「D Muse 2018」開催

平成30年４月22日（日）に校友会女性会員を対象とした「D Muse 2018」が生命歯学部にて開催されました。参加者は100名を超え、生命歯学部、新潟生命歯学部からも学生さんが９名参加しました。奈良陽一郎教授による学術講演と、ゴディバジャパン株式会社社長のジェローム・シュシャン氏の講演の後、生命歯学部アンサンブル部の演奏を楽しみながら懇親会が行われました。「D Muse」は、幅広い知識が得られるとともに多くの先生と親交が深められる大変有意義なイベントです。次回以降も皆さまに楽しんでいただけるような企画を考えていきますので、在学中ならびに卒業後もお誘い合わせの上、どうぞ奮ってご参加ください。

校友会からのご挨拶

田中 良彦（71 回）
日本歯科大学校友会　常務理事

在学生のみなさん！ KOYU Timesを読んでいますか？
みなさんは印刷された紙で読むよりも、携帯メールでのほうが読みやすいですよね。いずれメール配信したいと思います。

KOYU Timesは編集部一同が、学生の皆さまに楽しんでいただけるよう全力で紙面作りに励んでおりますが、面白くありませんか？

それではみなさんと一緒に紙面を作りませんか！自分たちに役立つ情報を共有しましょう！

それではミニ情報をひとつ。

今年の新卒は校友会の107回で、新入生は113回になる予定です。それでは最高齢会員は何回卒なのか知っていますか？

それは25回で、昭和11年に卒業し、明治43年9月4日生まれで、今年108歳になります。もちろん日本で約10万人いる歯科医師のなかで最高齢者です。ギネスブック公認の男性世界最高齢者は113歳ですので、期待したいですね。

平成 30 年度歯学会大会・総会

平成30年度歯学会大会・総会は６月２日(土)日本歯科大学生命歯学部において開催された。メイン･テーマは｢デジタル歯科の最前線｣であった。近年話題の口腔内スキャナーによる光学印象や３Dプリンターによる積層造形法の歯科応用の発展はめざましく、歯科のデジタル化の未来を予測する大会となった。

ポスター発表の26演題のうち4題は本学学生から出されていた。参加者には実りの多い大会となった。

合同合宿に参加して

東京

今年も合同合宿の季節がやってきました。東京校と新潟校の両生命歯学部により４月28日(土)から５月２日(水)までの５日間、福島県猪苗代町で開催されました。４月28日に、猪苗代町の『学びいな』での合同開会式に中原貴副学長にご臨席いただきご挨拶をいただきました。今年の参加人数は両学部合わせて約340人と昨年より参加者が増えました。４月29日より13部活が参加し猪苗代町や会津若松市などに分かれて活発に活動をしました。その後、５月２日には合同閉会式が丸峰観光ホテルで行われました。長い人生の中でも大学生活で送る６年間はとても貴重で大切な時間です。この６年間に将来の目標に向かって専門的な知識を学び、技術の習得に励むことも重要ですが、学業以外に、クラブ活動で多くの友人と切磋琢磨し、汗を流すことも大切なことだと思います。目標に向かって頑張ることで友情と信頼が育まれた素晴らしい時間を過ごすことができました。

生命歯学部４年　合同合宿実行委員長　**市川顕司**

新潟

今年度の合同合宿も無事に終わりました。天候に恵まれ、合同合宿に参加した部活は充実した練習や試合ができました。また去年と同様、今年も５日間の日程で行われたため、両校共に親睦が深められたと思います。初めの３泊間は猪苗代町周辺の施設で練習を行い、４泊目には丸峰観光ホテルに移動し慰労会や閉会式が執り行われました。私は今回運営側の立場で、去年の10月から5月2日(水)までの間、無事に終われるかが不安でしたが、参加者全員が喜んでくれた合同合宿になれたと思います。

合同合宿は体育会が主体で行っている行事であり、上手く運営ができなかったところがあります。今回の反省を生かし来年の合同合宿は今回より、より充実した行事にして欲しいです。合同合宿での練習や試合などをこれからの練習に生かし、歯学体でもいい結果を残せるように頑張って欲しいです。最後に今回の合同合宿でお世話になりました磐梯スポーツ村の方々ならびに、丸峰観光ホテルの方々、本学の関係者の方々、誠にありがとうございました。

新潟生命歯学部４年　合同合宿実行委員長　**鈴木達大**

こうゆう先輩
第 14 回

趣味のプラモデル作りを通して

山本　智久 (76回)

趣味はプラモデル作りですと言うと、どちらかというとマイナーな趣味と世間では思われています。

私は物心ついた頃から、このマイナーなクルマのプラモデルをいくつも作ってきました。皆さんも幼い頃、一つや二つガンダムやミニ四駆のプラモデルを作った経験があるのではないでしょうか？それが自分の幼い頃はクルマで、飽きずに今も続いてる状態です。

そんなクルマのプラモデル、少し前までは作り終えても友人、家族にお披露目する程度でしたが、Facebookを始めるようになってからは状況が一変、同じ趣味のヒトと容易に繋がるようになりました。今まで知り合えなかったプロモデラーと言われるヒトから老若男女、全国 様々な職種のヒトまで。

この繋がりは大切なことだと思います。この歳になると歯科以外のヒトと利害関係なしに知り合える機会など、そうはないですから。

そしてこの繋がりから展示会に参加したり模型雑誌に掲載されたり、そこから更に実車の取材を受けたり…。趣味の世界がどんどん拡がっている感じです。

私から学生の皆さんに言えることは、仕事以外に、どんな趣味でも構いません。それを見つけて続けてください。そこからヒトとの繋がりができて、楽しい人生を築けると思います。

皆さんの歯科医師としての成功と共に趣味のある豊かな人生を送られることを願っています。

校友会・学生会共催　第３学年特別講義

Tokyo　平成30年5月17日（木）18：00～

場所：日本歯科大学生命歯学部九段ホール
講師：上濱　正先生（78回）
演題：「臨・基・応・変」で豊かな歯科医師人生を

「超高齢社会を迎えた日本。将来の歯科医療のニーズは確実に変化する。そして現在、既に変化し始めている。歯科医師が歯だけを治療する世の中は最早、終わったのだ」。3年前に入学した当初の私はその言葉を聞いても、どこか他人事のような気分だった。しかし、歯科医療について学び、色々な先生方からお話を聴くうちに、現実味を帯びてきたように思った。

そんな状況に加えて、追い討ちをかけるように目の前に迫ったのは国試合格率の数字。一抹の不安と焦りを抱える中で上濱先生の講演を聞かせていただいた。先生ご自身のご体験や実際の現場の声などをウイットを交えながら、わかりやすくお話しいただいたことで、将来のヴィジョンが明確になったように感じた。

生命歯学部３年　鵜澤侑生

Niigata　平成30年5月10日（木）16：30～

場所：日本歯科大学新潟生命歯学部　511教室
講師：中原　貴先生（88回）
演題：夢のバイオ再生医療を実現する歯髄細胞のポテンシャル

再生医療が急速に基礎研究を行う研究室から臨床の場に近づいて来ている。

今はまだあまり知られていない、歯髄細胞を保存する『歯の細胞バンク』だが、医科と歯科が協力し、存在を広めていくことが大切だと思った。

自分が所属している大学がこんなにも最先端の研究をしているとは知らなかった。今まで漠然と自分は臨床に行くのかな、と思っていたが、本講義を聴き終わり、私たちが所属する学部の名前につく『生命歯学』に相応しい研究にわくわくした。これからの未来が楽しみであり、それに携わっている本学を誇りに思う。

新潟生命歯学部３年　塩田恭子

平成29年度校友会 スポーツ・文化・学術大賞 校友会 特別表彰

ゴールデンウィーク初日の晴天に恵まれた平成30年４月28日（土）、午後２時から平成29年度校友会スポーツ・文化・学術大賞の表彰式が福島県猪苗代町の体験交流館「学びいな」にて、合同合宿開会式の中で行われました。開会式は飯田夏未さん（東京・４年）の司会進行で始まり、森田恭平君（東京・４年）の開会の言葉、中原 貴日本歯科大学理事・副学長のご挨拶があり、続いて藤井重壽校友会副会長の学生たちへの激励の挨拶があり、合同合宿実行委員長の市川顕司君（東京・４年）へお祝いの金一封が渡されました。また、スポーツ・文化・学術大賞として、生命歯学部からは第49回全日本歯科学生総合体育大会硬式野球部門優勝（歯学体３連覇）の硬式野球部（代表として有方伸太朗君・５年）、新潟生命歯学部からは第49回全日本歯科学生総合体育大会　陸上部門　走高跳びで優勝した新妻智憲君（２年）が受賞、それぞれに校友会から表彰状と金一封が贈られました。また、来賓紹介の後、誠和会による力強い校歌斉唱と合同合宿の成功を祈って力強いエールが行われ、合同合宿に賭ける熱い思いが伝わりました。続いて森田恭平君（東京・４年）閉会の言葉で終了しました。

日本歯科大学校友会本部　常務理事
佐藤全孝（74）

第１学年オリエンテーション合宿　新潟

第１学年オリエンテーション合宿が、４月７日（土）に月岡温泉華鳳にて行われ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

諸先生方の講義では、私たちが進もうとしている道は想像していた以上に厳しい、ということを改めて認識しました。自分は本当にやっていけるのかと不安になりましたが、「腹をくくれ」という言葉に迷いが打ち消されました。一見すると単純な言葉ですが、私はこの力強い言葉を聞いて、甘い考えを捨て固い意志を持ち、頑張っていかなければならないという気持ちになりました。

グループディスカッションでは、「自分の将来の歯科医師像」などのテーマについて、話し合いをしました。初めは緊張していてぎこちなかったのですが、徐々に活発に意見が出るようになりました。初対面の人とでもコミュニケーションをとって協力していく力が必要だなと思いました。

ホテルの食事はとても豪華で美味しく、露天風呂は特に素晴らしかったです。

この合宿を終え、知り合ったばかりではありますが、１学年の仲間と共に進級していきたいと思います。

私たちはまだ歯科医師の卵にもなっていないと思いますが、決意を新たに歯科医師への道を１歩１歩進んでいきたいと思います。

新潟生命歯学部１年　廣安　諒

千葉県人会開催の報告

平成30年5月11日（金）午後6時30分より、飯田橋ラムラ20階の「北海道」にて千葉県人会が開催されました。

今回、千葉県校友会会長の秋場透先生（63回）をはじめ、６名の千葉県校友会の先生方、三代冬彦病院長（72回）を含めた大学内の先生方７名と新入生４名を含む在校生18名の総勢31名が集いました。

千葉県人会を通じて、ご活躍されている多くの先生方からお話を伺い、同じ地域で働く仲間との連携が、いかに重要であるかということを再認識する貴重な機会となりました。

生命歯学部　3年　新井 悠一郎

KOYU Quiz

Q. 矢印の部位で最も多いのはどれでしょうか。
1つ選んでください。

A．触点　B．圧点　C．痛点
D．温点　E．冷点

KOYU Quizの答え：矢印で示した部位は歯肉頬移行部で、痛点が多いのが特徴です。したがって答えはCです。

国家試験体験記

私は今年２月の歯科医師国家試験を受験し、現在日本歯科大学附属病院で臨床研修歯科医として勤務しています。これから私の学生時代に経験したことをお伝えすることで、後輩の皆さんのお役に立てればと思います。

２年生は基礎系の科目が中心であり、新しく学ぶことが多かったですが、１日の復習をきちんと行うように努力しました。国家試験では基礎系の問題の出題もありますが、６年生では基礎系の勉強になかなか時間をかけることができないので、２年生の頃からしっかり理解しておくことが大切であると今あらためて思いました。３年生からは臨床系の座学が中心となり、できる限り苦手な科目をつくらないようにしました。４年生になると臨床系の実習が始まり、毎回の実習では時間内に課題を終わらせることに精一杯でした。座学では理解することが難しかったことが、実習を通して理解することができました。５年生での病院臨床実習では実際に先生方の診療のアシストをすることで教科書などでは想像しづらかった治療手順や、治療に必要な器具･材料を学ぶことができました。治療だけでなく患者さんへの対応など、歯科医師として大切なことも同時に習得できました。実際に今回の国家試験では、病院実習のなかで学んだ症例と同じような問題が出題されていたので、日々のアシストをするなかで疑問に思ったことはすぐに調べたり、先生方へ質問することが大切だと思いました。６年生になると本格的に国家試験に向けた勉強が始まりました。私は授業を真剣に受け、先生が解説している内容を聞き逃すことがないようにメモを取り、授業のなかで理解するように心がけていました。その日の夜と次の日の通学時間に授業の復習をし、土日にはこれまで学んだ範囲を問題集で解き、理解を深めるようにしました。勉強を続けていくうえで精神的に辛い時もありましたが、たまに自分に対してご褒美などを与えてストレスを溜めないよう心がけていました。休む時はきちんと休み、勉強する時は集中するというメリハリをつけ、無理なく勉強を続けていくことが大切だと思います。

国家試験合格を目指して頑張ってください。応援しています。

日本歯科大学
附属病院
臨床研修歯科医
水沼 詩葉
（107回）

診療室での物語

カルテ No.20
画像診断の楽しみ

附属病院
歯科放射線・
口腔病理診断科
岩田　洋
（85回）

木曜日の朝は、翌週の手術症例の検討会からはじまります。診断科は画像診断を行う歯科医師と、病理診断を行う歯科医師が協力しあいながら仕事をしています。週１回行われる症例検討では診断医だけでなく、研修に来ている学生や研修歯科医、時に口腔外科医も集まり、手術を受けられる患者さんの診断について熱い討議が繰り広げられます。

治療を行う診療科では、歯科医師のクライアントといえば当然、患者さんですが、診断医にとって患者さんだけでなく、それを担当する先生たちも大切なクライアントです。「ちょっと一緒にこの画像を見てよ。」嬉しいことに診断科にはいろいろな科の先生が足を運んでくださいます。さらに附属病院だけでなく、インターネットを使った遠隔診断で校友の先生からの診断依頼もあり、大量の画像情報が届きます。時には診療時間が終了した後に緊急の画像検査、診断の依頼が飛び込んでくることも…。毎日数多くの画像をみていると、時には患者さんの訴えとは全く異なるところに大きな病変が隠れていることもあります。われわれ診断医は、治療医の第２の目となって客観的な立場で画像を観察し、隠れた病変があればそれをいち早く発見することで安心安全な歯科医療のサポートをしているのです。

一方、最近の歯科医師国家試験では歯や顎のＸ線写真だけでなくCT、MRI、超音波、PETなど様々な画像を使って問題が作られています。歯科医療の現場でも何種類もの画像検査が組み合わされて実施され、それを元に正確な診断が行われています。中には私が学生時代には学ぶことのなかった検査機器もあり、歯科用コーンビームCTはその一つになります。2000年頃に登場したこの装置は、今では多くの歯科医院に導入されており、当科でも歯内治療、埋伏過剰歯・智歯の抜去、インプラントなどの目的で撮影と画像診断が行われています。画像検査機器の発展はめざましく、新しい装置や画像処理の技術が開発され続けています。学生時代の情報だけでは、当然それらを活用するのに十分な知識や技術を補うことは難しく、定期的に学会や講習会などで情報をアップデートする必要があります。

大切なのはそれを面倒と考えるのではなく、楽しいと感じる心を持つことだと思います。すべての歯科医師に通じることではありますが、仕事を始めてからが本当の（そして楽しい）勉強の始まりだと感じています。展示会やデンタルショーなどで新しい装置や見たことのないような画像に出会うたびに、今までぼんやりとしかと見えていなかったものが鮮明に見えるようになって「これを使ってどんなことができるかな？」と考えると、まるで子供が新しい玩具を手にした時のように、心がワクワク、ドキドキしてくるのです。

卒業して何年経っても仕事の中に新たな発見や学びがあることはとても楽しいものです。これを読んでくださっている学生のみなさんが、歯科医学の中にひとつドキドキ、ワクワクできる何かを見つけられたらとても嬉しく思います。

校友の　歴史の重さ　手渡して　頼むぞ後輩　母校の未来　伝統を　守ってゆきます　我々も　富士見・浜浦　熱き心で

KOYU Times　2018 Jun. | no.22
2018年６月25日発行　発行人：近藤勝洪　編集人：倉治　隆
発行：日本歯科大学校友会　日本歯科大学生命歯学部100周年記念館2F　TEL.03-3261-8971　FAX.03-3264-8745
URL　http://www.koyu-ndu.gr.jp/